

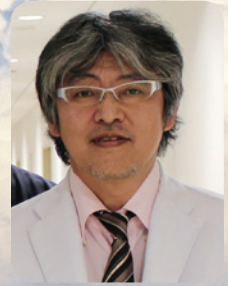
私がみた坂の上の雲

—第12弾—

新年号

心臓血管外科

主任部長 中尾達也



新年明けましておめでとう
ございます。新心会の皆様、
お元気ででしょうか？今回は2
年ぶりに正月に広島に帰省で
き、元旦の2日夜に松戸に到
着し副院長室で原稿を書いて
いる心臓血管外科主任部長の
中尾達也です。昨年も、新心
会総会や主催旅行は出来ず皆
様と時間を一緒に過ごす機会
もなく大変残念でした。

さて、2022年新東京病
院は53周年を迎え、私もここ
松戸の新東京病院の地に来て
13年になりました。心臓血管
外科ですが、池谷先生、津田
先生、久米先生と合わせて4
人で頑張っているところで
す。今年の4月には、手術連
携をしていた関係で国立癌セ
ンター中央病院食道外科から
栗田先生が、心臓外科スタッ
フとして来てくれることにな
りました。新しい戦力として
期待しています。

2021年度の実績を報告
致します。昨年1年間の開
心術（人工心肺症例245
例、非人工心肺症例およびオ
フポンプ冠動脈バイパス手術
4例）が249例に減少、胸
部大動脈ステントグラフト術
13例で心臓胸部大血管手術総
数は262例でした（昨年は

312例）。全体的に総数は
減っています。低侵襲手術の
柱として腹部大動脈ステント
グラフト（37例）、胸部大動
脈ステントグラフト（13例）、
MICS（右小開胸、胸骨下
部部分切開）での大動脈弁や
僧帽弁手術は13例でした。胸
部真性、あるいは急性、慢性
解離性大動脈瘤などあらゆる
形態の大動脈瘤に対して開始
したオープンステントグラフト
手術は、良好な成績とともに
に本邦でもトップクラスの
症例数（2014年7月～
2021年12月までに241
例）になっています。

この国産ステントグラフト
の海外とくに保険償還が決ま
った台湾での普及に、台湾の
台北や台中の病院まで足を運
び技術指導やアジア心臓胸部
外科学会やイタリアでの研究
会等大きな場所での講演に積
極的に努めてまいりましたが
2年前からはwebでの講演
や研究会参加のみです。一方
柏癌センター呼吸器外科や築
地中央癌センター食道外科と
共同しての、心臓や頸部血管、
大血管にまで浸潤した肺癌、
縦隔腫瘍ならびに食道癌を手
術、治療することも引き続き
積極的に行い相互協力体制を

より信頼できる強固なもの
にしています。さらに、千葉県
内でエホバの証人の心臓患者
者に対して心臓手術を提供で
きる唯一の施設としての役割
も引き続き務めています。心
臓外科、手術室、麻酔科スタ
ッフが減り個々の負担が増え
る中で患者さんを見ていただ
いているすべての病院スタッ
フ、各部署、各人、一人一人
の御尽力に感謝致しておりま
す。今年も1年、ご指導とご
支援のほど宜しくお願い致し
ます。

最近の学術活動では、令和
3年11月26日に、第59回日本
人工臓器学会でのランチョン
セミナーにおいて、「術後合
併症ゼロを目指して-Expert
のこだわりテクニク」と
いう題目で、現地での参加登
表を要請されました。これも
最近になってコロナ感染者が
急速に収束してきたからでし
ょうか。

その2週間前の11月13日に
は、第32回関東心臓外科学会
手術手技研究会にリモート登
壇して、全国の多くの顔が見
えない心臓外科医の先生方に
向かって発表しました。そこ

から研究会を途中退席し、1
時間後には台湾で主催されて
いた国際学会 (International
Summit on Diagnosis and
Treatment of Cardiovascular
Disease) において、Zoom
の画面でWebでの招聘発表
をして台湾の座長と討論する
という数年前では考えられな
い国内外でのダブルブッキ
ング講演を致しました。さ
て、このような時世の中、日
頃お会いできない先生との十
分な意見交換や人脈作りには
学会に現地参加してFace to
Faceでお話するのが一番良
いと言われる先生も多くおら
れると思いますが、はたして
そうなのでしょか。昔、私
のmentor（心臓外科医のお
師匠さん）が、学会参加する
ときには心臓血管外科の各分
野で今何が一番ホットな話題
になっているか、しつかり
聞いてこいと言われ恐れ多
くもmentorに留守番をして
いただきました。現在では、
mentorに留守番をしてもら
わなくても、病院や手術を何
日も休むことなくあとでオン
デマンド配信をみればホット
な話題を聴き逃すことなく勉
強できます。最初に述べた人
工臓器学会はヒルトン東京ベ



写真1 第59回日本人工臓器学会でのランチセミナー後に
 (向かって左) 演者: 真鍋 晋教授 (国際医療福祉大学成田病院)
 (真ん中) 司会: 本村 昇教授 (東邦大学医療センター佐倉病院)
 (向かって右) 演者: 中尾 達也

イで開催されました(写真1)。

このホテルはデイズニラ
 ンドに隣接しており、旦那が
 学会参加中に奥方と子供たち
 はデイズニラランドで大き
 にenjoyするには最適です。
 そして夜にはホテルでご家族
 と十分な意見交換や、Face
 to Faceでの食事ができるで
 しょう。数多くある学会で自
 分の仕事のことばかりを考え
 るよりは、病院の仕事のため
 日頃不在にして寂しい想いを
 さしているかもしれない御家
 族に対して、たまには素敵な
 恩返しができる学会があつて

患者さんの御縁

もいのではないでしょう
 か。

突然ですが、二人の亡くな
 られた患者さんのご家族から
 お手紙をいただきました。お
 断りをせず大変申し訳ないの
 ですが紙面をお借りしてご紹介
 させていただきます。一人
 目の患者さんは、茨木県のか
 たで6年前と4年前の2回に
 わたつて心臓弁膜症の手術を
 施行しましたが2年前に消化
 器系の病気で亡くなられまし
 た。最近になってたまたま奥
 様が御主人の遺品を整理して
 いたところ、2回目の手術の
 際の書類がでてきたそうで
 す。その書類の中には御主人
 の書かれた文字があり、それ
 を読まれたことからお礼の手
 紙をいただきました。私が患
 者さんに、「〇〇さんは北海
 道出身なので大陸的な感じが
 しますね」と最初お会いした
 時に言ったこと、私が被爆2
 世で実家が漁師をやっていた
 こと、私が医師になつたいき
 さつ等をご主人や奥様にお話
 したそうです。奥様が「いま
 で沢山の医師にお会いしたが
 話の内容まで記憶に残つたの
 は初めてです。」と思わず筆

をとられたとのことです。御
 主人の火葬後に人工弁が出て
 きて、それは御主人が一生懸
 命病魔と闘った証しのように
 感じたそうです。もう一人の
 患者さんも茨木県の方です
 が、8年前に重度連合弁膜症
 を施行しましたが、今年にな
 って心不全で亡くなられまし
 た。もともと超低心機能で心
 臓手術も難しいといろんな病
 院で言われてたそうで、いろ
 いろ巡り巡って新東京病院に
 辿り着きました。8年前に初
 めて診察室でお会いしたとき
 の感動を奥様がお手紙にした
 ためられていました。「主人
 と二人同時に感じておりまし
 た。もう大丈夫、絶対に助け
 ると、そして助けていただき
 ました。その後も何度も助け
 ていただきました」と。最後
 には、お二人とも新東京病院
 のスタッフへの感謝もかれ
 ておりました。ありがたいこ
 とです。感謝、感謝です。病
 院スタッフへの大きな励みにな
 ります。

先に、広島に住んでいる妻
 が松戸にきて、松戸に引越
 し後、13年間一回も開けてい
 ない段ボールに詰められた昔
 の私の資料を断捨離してくれ
 ました。夜、彼女がニコニコ
 して断捨離中に宝物を見つけ
 たといつて私に報告してくま
 した。20年前に、彼女のお母
 さんの3回目の心臓手術を私
 が執刀した時に、転院のこと
 でやりとりした前医からのお
 手紙や病気の資料が丸々出て
 きたからです。今もお元気な
 義母に会うため、お宝物を大
 事に持って広島に帰りまし
 た。

* * * * *

命です。そしてこの先今日よ
 り若い日はありません。そし
 て余つた人生などないと自覚
 し天命を大好きな心臓外科医
 としての正業に注ぎたいと思
 います。いまでもまさかとい
 う坂に遭遇しこの窮地を超え
 ることができるかと思う時が
 あります。でも周りのひとた
 ちのおかげという影を追うこ
 とで坂を乗り越えられるので
 す。

患者さんの中にはお元気で
 すかと尋ねるとおかげさまで
 ありがたいと自然に口にされ
 る方がおられます。何事も恩
 返しと考え幸せそうにみえま
 す。そのたびに、大変な時こ
 そ命そのものに宿る元にある
 気(元氣)を意識して心にも
 体にも元氣を取り戻し、そし
 て丁寧に毎日を過ごすことを
 心がけようと思います。

数年前から年賀の御挨拶を
 差し控えています。できれば
 と思いましたがこのままでは
 自分の体も気持ちも持たない
 と負担に感じ終わりにしまし
 た。私が松戸に来て以来、毎
 年私の心臓外科医としての広
 島のお師匠さんから年賀状を
 いただいております。「元氣
 に頑張れ」の一言だけを添え
 て。ことしの元旦1月1日に



写真2 速谷神社境内

宮島の対岸にある私の家の裏地にある速谷神社に初詣に妻と行ききました(写真2)。お祓いを並んで待っている

と別の出口近くのおみくじ売り場に見たことがある(この時ははつきりわからず妻には話さない)ご夫婦が目に残りました。もしやと思つてちらちらと目をやっています。が、男性が指さす仕草をみるとときあれはお師匠ご夫妻かもしれないと妻に耳打ちしました。妻はいぶかっておりましたが、お祓い、禊、お辞儀が終わりご夫妻に近づいて○「先生!とお声がけすると「ナカオじやー、何しよる

ん!」とでかい声で迎えてくれました。こんな偶然、速谷神社の神様が、数多あるご縁をたまたま揃えてくださり、かけがいのない大切なひと時を私にいただいたと確信しています。

1月2日に新幹線で東京駅に着き山手線で上野駅まで行きました。まだ昼の2時でした。この原稿の内容を考えていた時に前述したお手紙をいただいた二人の患者さんとそ

のご家族を想い茨木の水戸まで行ってみようと急行の日立に乗ってみました(写真3)。広島とは違う景色が車窓をかすめます。大きなまっ平らな土地ですが、山や海も見えません。患者さんが段ボール箱一杯に送ってくれた美味しいミニトマトやキュウリを育んだ場所を見てみたかったのかもしれません。

もしかませんが、自分にとつてはかけがえのないご縁と出会うきっかけを運んでくれる旅の一步かもしれないね。



写真3 水戸駅構内